

日本学校教育相談学会

The Japanese Association of School Counseling and Guidance

会報

JASCG

- 1 ◎会長メッセージ//巻頭言
- 2 ◎第28回岡山大会の案内
- 3 ◎研修委員会情報//第27回中央研修会予告
- 4 ◎先輩に聞く
- 5 ◎先輩に聞く
- 6 ◎学会誌作成委員会//認定委員会//広報委員会
- 7 ◎【佐賀県支部】一部活動報告一
- 8 ◎東日本大震災被災者支援委員会報告//事務局より//

第50号編集後記

第50号

この度の九州地域の地震で被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。
お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、ご遺族に心からお悔やみを申し上げます。
また、被災地域の一日も早い復興をお祈りいたします。

私ども日本学校教育相談学会は、東日本大震災被災者支援委員会を平成24年に立ち上げて、現地訪問、研修支援、広報活動などの支援活動を進めてまいりました。今回の九州の地震についても、被災地域の現状は、時々刻々と変化しているようであり、本学会として、短期的、中期的、長期的にどのような支援が可能なのかを早急に検討するとともに、学会の総力を挙げて、支援活動を進めます。

会長 栗原 慎二

巻頭言

私と教育相談

会報も節目の第50号を迎えました。

私が本学会の会員になったのは、平成5年度に川崎市適応指導教室（川崎市では「ゆうゆう広場」と呼んでいます）の最初の専任教諭を命じられ、職場の会員の先輩から入会を勧められたことからでした。

まだ「生徒指導対教育相談」のような時代でした。不登校児童生徒やその保護者への対応、学校との連携等の経験を重ねる中で平成9年度には学校カウンセラーの資格を取得できました。その後、総合教育センターと学校現場の勤務を経て、定年退職後はゆうゆう広場で子どもと直接かかわる教育相談員と主に保護者との相談を担当するカウンセラーの仕事をしました。学校カウンセラーとしての自覚と責任を感じながら面談を進めました。カウンセラーとして

は不登校の子を抱えるいろいろな保護者の方、特に母親の想いを聴くことができました。保護者との面談で「子どもが元気を取り戻した」「子ども自身が将来について考えるようになった」という話を聞くと仕事に充実感を得ることができます。



川崎市支部代表 菊地敏雄

現在、支部の理事長を務めています。本学会には「川崎市支部」として加入しています。かつて総合教育センターで教育相談の研修を受けた人たちが「教育相談サークル」を作り、さらに自主的に教育相談の研修に取り組みました。本学会の発足時には「教育相談サークル」のメンバーが中心となって加入し、川崎市支部を組織しました。現在でも、川崎市支部と「教育相談サークル」の共催で研究・研修会を実施しています。

本学会の活動の推進力は会員の力です。川崎市支部でも会員数の増加、特に若い人たちの加入の促進が大きな課題です。学校の業務の多忙化等から自主的な研究・研修への参加の厳しさがあります。しかし、支部の活動を通して学校教育相談のすそ野を広げ、会員の教育相談の力量を高めていくことで、本学会の伝統と業績に貢献できると信じています。

第28回岡山大会のご案内

岡山県支部理事長 藤井和郎

大会テーマ「感じ 気づき 考え 学ぶ 学校教育相談の新たな潮流を創る」

すでにご案内のとおり、第28回総会・研究大会が、8月5日(金)～7日(日)に「晴れの国おかやま」で開催されます。4月7日から参加申込の受付も始まっています。

実践事例・研究発表15本、ポスター発表5本、自主シンポジウム9本、ラウンドテーブル1本の申込みをいただき、実行委員会も着々と準備を進めています。詳細は第三次案内をご覧ください。

○ 後援

文部科学省の後援もいただくことができ、「文部科学省、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会、倉敷市教育委員会」となりました。

○ 夏季ワークショップ(8月5日)

Aコース 「P B I S入門」 中川優子先生

Bコース 「学校におけるストレスマネジメント教育」 藤原忠雄先生

Cコース 「学習する集団作りを考える～協同学習の原理と導入～」 高旗浩志先生

Dコース 「子どもの発達の支援の実際」

バーンズ亀山静子先生

Eコース 「学校教育相談を学級の課題解決に活かす方法と実際」 中村健先生

Fコース 「論文作成の基本～実践事例・研究論文～」

中村豊先生・橋本秀美先生

定員は、各コース30名程度となっています。オンライン申込(アポロン)を見ますと、どのコースも順調に申込みをいただいているようです。

○ 支部代表者会 (8月5日)

16時30分から19時まで支部代表者会があります。代表の方はご参加ください。なお、支部代表者会後の懇親会は予定していません。

○ 文部科学省講演 (8月6日)

本大会は、文部科学省の後援をいただくとともに、初等中等教育局児童生徒課長の坪田知広様に「学校教育相談体制の充実(仮)」と題してご講演をお願いすることができました。最新の国の動向をお聞きできるものと楽しみにしています。

○ 記念講演 (8月6日)

講師は、岡山県出身で筑波大学大学院教授の山海嘉之先生です。山海先生は、人間の身体機能を改善・補助・拡張・再生する世界で初めてのサイボーグ型ロボット「ロボットスーツHAL」を開発されました。テレビ等でもよく紹介されているのでご存知の方も多いと思います。

演題は「感じ 気づき 考え 学ぶ 新領域【サイバニクス】からの提言」です。先生はロボットのセンサーを特に大切にしておられます。学校教育相談においても、私たち自身のセンサーを研ぎ澄ませ、感受性を高め、子どもたちの心身から発せられる様々な情報に気付き、それを読み取り応じることが大切です。その意味で、学校教育相談に携わる私たちにとって多くのご示唆をいただけるものと期待しています。

○ 研究発表等 (8月6、7日)

8月6日午後は、実践事例・研究発表7本、ポスター発表5本、自主シンポジウム8本を、9会場で行う予定です。

8月7日午前は、学会賞・小泉英二記念賞受賞者講演、実践事例・研究発表8本、自主シンポジウム1本、ラウンドテーブル1本を、7会場で行う予定です。内容等の詳細は第三次案内をご覧ください。

8月6日、7日は納涼花火大会やうらじやパレードが行われる「おかやま桃太郎まつり」当日です。熱氣あふれる岡山の街もぜひお楽しみください。

参加申込締切は7月14日(木)となっています。お早めにお申し込みください。

それでは全国の皆様、8月に岡山でお待ちしております！

研修委員会情報

岡山大会の

ワークショップとラウンドテーブルについて

平成28年8月5日(金)、岡山大会の前日、岡山市の「ピュアリティまきび」で第17回夏季ワークショップ、8月7日(日)に同会場で第5回ラウンドテーブルを開催します。

ワークショップの詳細は、会報に添付されている、講師の先生方によるワークショップのご案内を参照ください。アメリカからも2名の先生に開講して頂いております。また、「論文の書き方講座」は、午前午後を複数の講師の先生が担当致します。

ワークショップの参加申し込みは先着順です。会場の関係で最大で40名の収容になります。定員に達した場合には第2希望に回って頂きます。参加申し込み状況は、日本学校教育相談学会のホームページに6月末より順次掲載する予定です。お早めに申し込みください。

研修委員会主催のラウンドテーブルは、今回で5回目となります。毎回大勢の会員の方々と一緒に、会員による話題提供の後、小中高のグループに分かれて教育相談の実践を語り合っています。

受け身の学びではなく、まさに主体的な学会のアクティブ・ラーニングです。今回のテーマは「教育相談の定着を語り合う」ですが、福岡教育大学の西山久子先生に、教育相談システム・ガイダンスカリキュラム・定着化をキーワードに、「教育相談におけるシステムの定着化に向けた実践」の話題提供をお願いしています。

全国の皆さんと、教育相談の現状とこれからを語り合いましょう。参加をお待ちしています。

(文責：研修委員長 渡辺 正雄)



第27回中央研修会予告

平成29年1月7日(土)～8日(日)、東京都渋谷区代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで、第27回中央研修会を開催致します。

一部未定ですが、概要をお知らせ致します。詳細は11月の会報でご連絡致しますが、10月末日には学会ホームページに募集要項を掲載致します。以降、参加申し込み状況もホームページでお知らせ致します。お誘い合わせの上、ふるってご参加ください。

今年度の研修会の構成は、1月7日(土)にプレ講座3講座とシンポジウム・教育相談カフェ(交流懇親会)、1月8日(日)にコース別講座7講座となります。

【第27回中央研修会の内容】

「プレ講座(仮題)」

【1月7日(土)】13:00～14:30

(1) 「感覚統合療法入門」

松本政悦(作業療法士)

・「感覚統合療法」は発達障害児のリハビリーション、療育実践として、子どもの学習、行動、情緒あるいは社会的発達を脳における感覚間の統合という視点で分析し、治療的介入を行う方法です。

(2) 「動機付け面接実践入門」

岡嶋美代(和楽会なごやメンタルクリニック医師)

・「動機付け面接法」は、精神疾患や健康行動、保健衛生行動などの領域で治療のエビデンスを積み重ね、対人援助の領域で推奨される面接法・カウンセリング技法です。教育面接にも利用できます。

(3) 「ラフターヨガ入門」

田所メアリー(NPO法人ラフターヨガジャパン代表)

・「ラフターヨガ(笑いヨガ)」は、笑いとヨガの呼吸法を組み合わせたエクササイズで、笑うことでも多くの酸素を自然に体に取り入れ、心身共に元気になります。健康カウンセリングのツールに。

「シンポジウム」

【1月7日（土）】14：55—18：30

[テーマ]

「合理的配慮の実現

～学校教育相談の真価が問われる～」

[基調講演]

「合理的配慮にみられる理念と教育相談」

涌井恵（国立特別支援教育総合研究所
情報・支援部 主任研究員）

[シンポジスト]

「共生社会の一員を育てる」

石橋瑞穂（川崎市立御幸小学校）

「合理的配慮で進路を拓く」

浜崎美保（神奈川県立田奈高等学校）

「アドボカシーと合意形成」

交渉中（権利擁護団体の立場から）

[指定討論]

砥炳敬三（帝京大学）

「教育相談カフェ」（交流懇親会）

【1月7日（土）】19：00—20：30

「コース別講座（仮題）」

【1月8日（日）】9：30—15：30

Aコース「事例に学ぶWISC-IVの実際」

小林玄（立教女子学院短期大学）

Bコース「精神科医の聴く面接に学ぶ」

高橋和巳（風の木クリニック院長）

Cコース「アクティブ・ラーニングを援用したキャリア教育」 鈴木建生（産業能率大学）

Dコース「家族システムから教育臨床問題を解く」
若島孔文（東北大学）

Eコース「アドラー心理学に学ぶ学校教育相談の役割」
会沢信彦（文教大学）

Fコース「子どもの心の成長を目指すフレンズ入門」
松本有貴（徳島文理大学）

Gコース「論文の書き方シリーズ」
山崎洋史（昭和女子大学）
(文責：研修委員長 渡辺 正雄)



先輩に聞く

「私と教育相談」

第2代会長 今井五郎

先輩に聞くシリーズとして、第2代会長の今井五郎先生にインタビューさせていただいた。これまでの御発意・実践・研究、そして今後への示唆の一部をここに紹介させていただく。

スクールカウンセラーア制度が、文部省（現文科省）により導入されて早約20年が経過した。児童生徒の所属する社会適応を促進する文脈での本支援は、その社会を十分に認知しているカウンセラーが求められる。よって学校教育現場においてその社会を最もよく認知するカウンセラーは、すなわち教師であることも現在明白となっている。その創成期において、教師による学校教育相談の実践および支援を中心的理念に掲げた日本で初めての学会、日本学校教育相談学会を、小泉英二初代会長とともに事務局長として、また、第2代会長として成立・発展させたのが、今井五郎先生である。

1. 歩み

北海道大学理学部化学科卒業の後、私立芝中・高校、都立高校教諭となる。その傍ら、問題行動のある生徒を対象に合宿を継続する。合宿は、長期休業中に八ヶ岳山麓の御実家で、個人的に無償で実施した。特に蜂追いと乗馬を行った。この合宿で非行の子は立ち直る。

不登校の子も合宿中には見違えるほど甦るが、数日登校すると元に戻ってしまう。そこに強い課題意識を持ち、研究を開始する。都立教育研究所相談部に内地留学すると、指導担当者が初代会長小泉英二先生であった。

その後、東京都教委指導主事、都立教育研究所相談部学校教育相談研究室に勤務。当時、不登校は登校拒否症（神経症）と診断され、怠学傾向の登校拒否は非行によるものというものが定説であった。この説に深い疑問を持ち、非行の子は学校をサボることはあっても、長期に欠席する傾向はない。むしろ、怠学傾向の登校拒否は、無気力の延長線上にあるのではないか？それは子ども達との合宿を通して得た確信であったそうだ。その証明のために調査研究を実施。都立高校20校、18778名の生徒を対象に

登校拒否生徒を抽出。各タイプ（①神経症的登校拒否生徒、②無気力傾向による登校拒否生徒、③意図的・積極的な登校拒否生徒、④非行による長欠生徒、⑤その他）に分類。その結果、各タイプの出現率は①0.26%、②0.35%、③0.16%、④0.05%となり、その確信が実証されることとなった。この研究結果は高い評価を得、文部省の手引書に引用され、小泉英二先生の登校拒否のタイプ分けにも引用された。『無気力傾向の登校拒否』が日本で初めて世に提示されることとなったのである。その後、東京成徳短期大学教授、東京カウンセリング研究所長となり、現在に至っている。

2. 日本学校教育相談学会の設立

学会設立の萌芽は、1986年以降、全国教育研究所連盟の関東地区指導主事を中心とした「学校教育相談の専門性を深化させる効果的な研修会が欲しい」等の意見から始まった。そこで今井先生は、学会設立を発意し、日本学校教育相談学会定款（案）を作成し、1987年、小泉英二、佐藤敏の両先生と3人で審議を開始し、1990年2月の設立総会で今井五郎先生の提案・趣旨説明、日野宜千先生の司会で延々と審議を尽くし、会則が決定。正式に、本学会が産声を上げることとなった。

（1）本学会の特徴

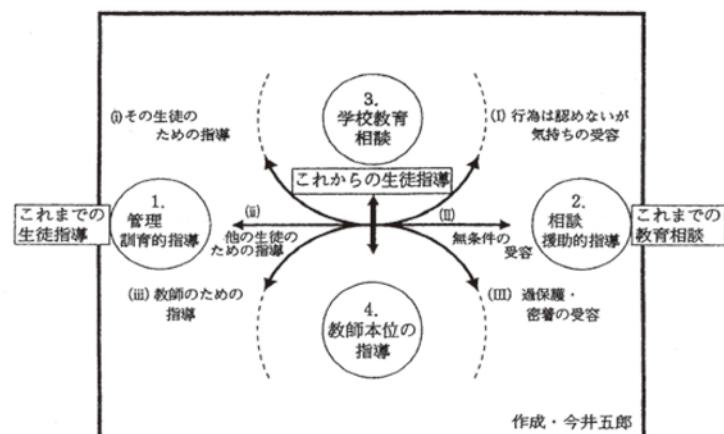
当時、本学会の特徴は、①入会資格は中級程度以上の研修を受講していること、②教育現場の教師を会員として優先する等、いくつか挙げることができるが、最も特徴的な点は以下の2点である。

第1に、支部の設置である。これは学会の常識を破るもので、小泉先生も唖然とされていたそうだ。各支部に理事長を置き、各支部の活動を最優先する。学会の事務局は、本部ではなく、各支部の活動を支え、支部ごとの連携を図る支援を担うもので、支部あっての本部であり、決して上下関係に位置づけてはならない。そのため当初は本部という言葉は禁句だったそうだ。

第2に、資格認定である。当時、相談といえば、村では人生経験の深いムラオサが当たるという常識があったそうだ。教育現場においても、年配、特に管理職は、「相談に関する勉強もした

し、実績もある」と自負し、相談に関する偏見を誇示する例が少なくなかった、そこで、本学会は、このような誤解を解くために、学校教育相談に関する研修を充実し、研修を積んだ真の実力者を認定し、資格を与えることにした。学校カウンセラー資格は、本学会の基盤となっていることがわかる。

（2）学会の専門性



学会には設立の礎となる専門性が在る。しかし、当時、学校教育相談とは何か、特に生徒指導との関係が曖昧であったため、今井先生は、概念図を示された。管理・訓育的指導か、相談・援助的指導かという選択的の指向を否定。教師本位の指導か、児童生徒最優先の指導かの指向の重視を表現したXY軸表現で、儒教の中庸、相反する二つを一つに束ね、より高い境地に誘う精神から導かれたそうだ。幼児・児童・生徒最優先の姿勢が、本学会の専門性である。

また、専門性をより具体的に提示するための学校教育相談に関する学術書の存在も求められ、本学会はこの壁を避け、見切り発車をしてしまった。そのため、早期に理論化準備委員会（理論化委員会）を設置。学会刊行図書編集委員会を設立し、委員長として『学校教育相談学ハンドブック』を2006年8月10日、4年の歳月を費やしてようやく刊行に漕ぎ着けたそうだ。

今井先生の業績は、今、新たな日本学校教育相談学会の道を歩もうとしている私たちにとって、他学会との専門性の確認など、学会の本来在るべき姿に迷いがある時、貴重な、かつ多くの示唆を与えてくれるものとなっている。

（文責：東京都支部理事長 山崎 洋史）

学会誌作成委員会

第26号が本会報と同時に届いていると存じます。昨年同様、論文を2本しか掲載できず、残念に思っております。そこで、会長の栗原慎二先生に巻頭言を、学会誌作成委員の橋本秀美先生に寄稿論文(学会賞を受賞された研究内容の紹介)を書いていただきました。

年々と、論文のレベルは上がっており、査読の先生方の目もより厳しくなってきているようにも感じます。近年は実践事例論文の投稿が減ってきているのが残念です。本学会は、「学校教育相談の実践」を重視しているのが特徴です。実践事例論文の投稿が増えるように、学会誌作成委員会としても努力していきたいと思います。

具体的には、1月の中央研修会と夏の全国大会にて、論文作成に関するワークショップを毎年実施していくことにしました。この機会を是非ご利用いただき、論文が完成したら、いつでも結構ですので、本学会誌へご投稿下さい

(文責:学会誌作成委員長 長坂 正文)

認定委員会

平成27年度学校カウンセラー認定のための面接を東京会場・群馬会場・福岡会場の3会場で実施しました。平成28年2月21日に審査会を実施し、推薦を含め43名の新しい学校カウンセラーを認定いたしました。更新は第1回、第6回、第11回、第16回の学校カウンセラーの方々が更新年度で、142名(4月現在)の方が更新されました。

また、ガイダンスカウンセラーについてはスクールカウンセリング推進協議会の資格認定審査により、29名のガイダンスカウンセラーが認定されました。スクールカウンセリング推進協議会ではガイダンスカウンセラーの活用を文部科学省に積極的に働きかけています。今後、この資格を持つ方の活躍の場が広がることを祈念しています。

平成27年11月に昨年度認定された学校カウンセラー・スーパーバイザー(72名)の名簿を配布させていただきました。この資格は2015年~2020年の5年間となっており、本年度のみ追加申請を受け付けました。この制度の有効活用を期待しています。

28年度の「学校カウンセラー・ガイダンスカウ

ンセラー実践研究会」は、平成28年12月11日(日)に神戸で、講師に栗原慎二会長を迎えて、「学校教育相談のこれから~日本における包括的生徒指導~」というテーマで講演していただく予定です。多くの学校カウンセラーの皆様の参加をお待ちしています。

(文責:認定委員長 青木 美穂子)

広報委員会

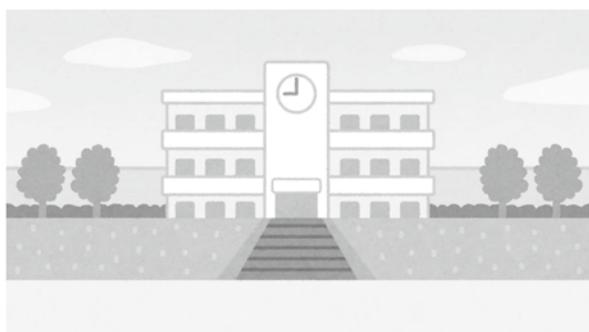
熊本県や大分県など、九州地方の多くの地域で、地震による被害の報告がニュースで報道されています。被害にあわれた方々の生活が少しでも早く回復されることを祈りつつ、まだまだ続く余震が気になります。

子どもたちはどのように過ごしているのでしょうか。学会の会員の皆様はどうされているのでしょうか。地域によっては被害の影響に差があるとは思いますが、ことの大小にかかわらず、心身に大きな影響があることに違いありません。不安な気持ちはどれほどのものでしょうか。被害にあわなくても、被害にあわれた方々の中に知人や関係者の方がいればとても心配になると思います。

今、まさに、私たちに何が求められているのでしょうか。私たちに何ができるのでしょうか。過去の阪神淡路大震災や東日本大震災で得た教訓を生かすべく、一人一人が少しでも各自で具体的に考えること・行動することが大切だと思います。

広報委員会は、学会としての考え方やこれまでの取り組みなど、少しでも早く会員の皆様に役立てるような情報を届けたいと考えています。そのため、学会のHPを活用していきたいと考えています。また、必要と判断された場合は会員に送付される会報とともに臨時のお知らせなどを送付することも検討していきたいと考えています。

(文責:広報委員長 梅川 康治)



【佐賀県支部】一寸活動報告ー

1. 大きな時代の流れのなかで

佐賀県支部の平成27年度の会員数は14名です。年々会員が減少しています。

平成2年「小中高等学校教育相談研究会」として発足し、平成4年には「全学相研全国研究発表会（佐賀大会）」を実施しています。



平成13年のスクールカウンセラー導入当初、佐賀県では教育ルネサンス政策のもと、各中学校区にスクールカウンセラーが配置され、本支部からも30名以上の会員がスクールアドバイザー（スクールカウンセラーと同じ）として任用されていました。しかし、その制度も平成18年度には縮小され、スクールカウンセラーは臨床心理士にシフトされていきました。

平成14年の本会の会員数は177名でしたが、現在はその12分の1以下に減少しています。研修会も、平成10年代には、外部著名講師にもお願いしていましたが、今は会員が交替で講師を勤めています。

2. 平成27年度の研修

(1) 第1回研修会・支部総会

- ・期日 5月30日（土）
- ・会場 小城市公民館
- ・内容 「発達障害について」講義、DVD視聴、協議
- ・講師 光武充雄 会員・臨床心理士（スクールカウンセラー）

(2) 第2回研修会

- ・期日 7月30日（日）
- ・会場 小城市公民館
- ・内容 「学校における非行問題について」「事例発表」
- ・講師 浦田 洋 岐阜県少年鑑別所長（法務技

官）、黒岩淑子 会員・臨床心理士（スクールカウンセラー）、田丸久子 元会員

(3) 第3回研修会

- ・期日 10月25日（日）
- ・会場 武雄市文化会館
- ・内容 「自傷・自殺への心の動きに気づく」（ゲートキーパー）
- ・講師 大塚靖人 会員・臨床心理士（スクールカウンセラー）

(4) 第4回研修会

- ・期日 12月20日（日）
- ・会場 武雄市立朝日小学校 会議室
- ・内容 事例1「不登校の事例」
事例2「友人関係につまずく成人女性の事例」
- ・発表者 川崎紀久雄 理事長・臨床心理士（スクールカウンセラー）
赤坂朝子 会員・学校カウンセラー
特別養護老人ホームカウンセラー

(5) 第5回研修会

- ・期日 2月21日（日）
- ・会場 武雄市立朝日小学校 会議室
- ・内容 「先生方のストレス対処法」
—動作法を中心として—
- ・講師 黒岩淑子 会員・臨床心理士（スクールカウンセラー）

(6) 第6回研修会

- ・期日 3月20日（日）
- ・会場 武雄市立朝日小学校 会議室
- ・内容 事例1「変則登校の中1の事例」
- ・発表者 牟田美穂子 会員・学校カウンセラー

3. 九州・沖縄地区研修会に向けて

平成22年（2010年）に佐賀市にて日本学校教育相談学会九州・沖縄大会を主催して、既に5年を経過し、平成29年度には再び佐賀県が受け持つことになっています。会員の数は減少していますが、小人数でも実施しようと、今から計画し、責任を果たそうと誓っています。

（文責：佐賀県支部理事長 川崎 紀久雄）



東日本大震災被災者支援委員会報告

支援委員会は、この4年間、宮城、福島、岩手の各県を訪問し、直接現地の先生方にお会いし肉声での情報に接してきました。

例えば「特別のことではなく、先生方が日常の児童・生徒指導や授業に役立つ研修をしてほしい。」「被災していない地域であっても避難により被災した児童とそうでない児童とがあり、先生方は微妙な関係の中で仕事をしている。困難の中で日常の指導に疲れ手がかりを求めている。」等々。

4年目、宮城県の先生方からも「学校現場では先生方が複雑な思いを内に秘めつつ頑張っているが、それはつらい状態です。そこへの支援が必要です。」というご意見をいただきました。今、求められているのは、現地の先生方のつらさや不安や課題に寄り添い一緒に考え解決へと歩める支援者の存在です。個人的な悩み、学級担任としての学級経営、あるいは職場の一員としての悩み等多岐にわたるものでした。

以前、これらの意見を踏まえ、「日常の指導に役立つ研修会」を企画しましたが、現地の先生方の日程と合わせず、実現に至りませんでした。そうした反省を踏まえながら、今後は、被災地および被災に関わる困難をもった学校に直接入らせていただき、先生方を対象に支援を行うことを企画しています。

(文責：支援委員会委員長 砥柄 敬三)

事務局より

○熊本地震被災地への会長メッセージ掲載

4月14日に発生した熊本地震に対応して、会長よりメッセージをいただき、HP及び会報に掲載いたしました。関係各位に感謝いたします。

○第28回総会・研究大会（岡山大会）に向けて

文部科学省の後援をいただけるように後援名義申請を提出いたしました。初めての申請なので、何度もやり取りをして時間がかかっていますが、三次案内には間に合わせたいと思います。

児童生徒課の坪田課長の講演依頼も同時並行で進めています。岡山大会の実行委員の方々には、お世話になります。

(文責：事務局長 砥柄 敬三)



第50号編集後記

卒業式や入学式、入社式や退任式など、行事があるたびに新たな気持ちになることが多いものです。「竹は、節があることでしなやかで折れにくくなっている」と聞いたことがあります。人も、「式という節目の行事」や「自身を振り返り、今を見つめ直すこと」でしなやかに生きていけるのかもしれません。大会や研修会が、各自の実践を振り返り、これからに活かせる節になりますように願っております。

(文責：広報委員長 梅川 康治)

日本学校教育相談学会会報

第50号
平成28年6月20日発行
発 行 日本学校教育相談学会
会 長 栗原 慎二
編 集 日本学校教育相談学会広報委員会
委員長 梅川 康治
事務局 〒179-0073
東京都練馬区田柄3-11-28
日本学校教育相談学会事務局
電話/FAX 03-3926-7386
H P <http://www.jascg.info/>